

論文内容要旨

論文題名：臨床シナリオを用いた学部連携 PBL チュートリアルでの
多職種連携教育における有用性の検討

専攻領域名：内部障害リハビリテーション領域専攻

氏名：榎田 めぐみ

内容要旨（1200 字以内）：

1. 目的

国内外において、医療の質を向上させ、治療のみならずその後の生活や療養支援も含めた保健医療福祉サービスを効果的かつ効率的に提供する多職種連携実践（IPW: Interprofessional Work）の必要性が語られるようになり、これにつながる多職種連携教育（IPE: Interprofessional Education）への取り組みが急速に進んできた。

本研究では、「チーム医療で患者に目を向ける」ことをめざした問題基盤型学習の学習成果を明らかにし、多職種連携コンピテンシーを習得するための卒前 IPE の開発に向けた示唆を得ることを目的とする。

2. 方法

1) 研究の対象とした A 大学におけるチーム医療学習プログラム

A 大学における IPE によるチーム医療学習プログラムは、体系的、段階的に学習の場と内容を広げ、確実にチーム医療に必要な能力を習得することを目標としたカリキュラムとして実践されており、「医療人マインドの獲得と共感」の第 1 段階に始まり、「チーム医療で患者に目を向ける」第 2 段階、「チーム医療の基盤を構築する」第 3 段階、「病院で患者中心のチーム医療を実践する」第 4 段階で構成される。

2) 分析対象ならびにその方法

本研究の分析対象は、①第 2 段階に位置づけられる臨床シナリオを用いた学部連携 PBL チュートリアル終了後に学生より提出されたポートフォリオの記述内容、②本 PBL 終了後に実施した「チーム医療教育に関するアンケート」結果である。①については質的分析を行い、②については結果の集計を行った。

3. 結果

本 PBL を通して学生は、多学部（多職種）で互いに協働し合い取り組むことが患者の多角的な理解につながり、取りこぼすことなく問題点の抽出ができ、患者のニーズに合った質の高い医療の提供ができることを学んでいた。そのためには、多学部（多職種）間での情報共有が重要であり、それを促進させるには円滑なコミュニケーションが必要不可欠であることも学んでいた。さらにその学習の過程において、①多学部（他職種）と相互に協

働しい、相互依存的関係を築く必要性、②多学部（多職種）と相互理解を深め、相互に尊敬し合うことで連携・協働が深まることを学んでいたと同時に、③グループ内で自己の専門性を発揮していく中で、チーム医療における自己の責任/役割の在り方を明確にし、④自己の専門分野における知識や技術を高めていく必要性までも認識していた。

「チーム医療に関するアンケート」結果においても《協働/チームワーク》、《コミュニケーション》、《責任/役割》について、概ね 80%以上の学生が肯定的な評価を示していた。

4. 考察

本 PBL は最終段階である学部連携病棟実習の基盤となる科目であり、本研究からもその位置づけと有用性が確認できた。チーム医療学習の一部である本 PBL は、チーム医療の模擬体験にとどまらず、将来、IPW/IPE が実践できる医療人養成に寄与するものと考えられ、卒前 IPE における多職種連携コンピテンシーの修得につながるカリキュラムであると示唆された。